

1年1組 算数科指導案

場 所：1年1組教室

1 単元名「ひきざん」

2 単元の目標

本単元では、10いくつかから1位数をひいて差が1位数になる減法について、「10といくつか」とみる見方などに着目して計算の仕方を考え、計算することを目標としている。

そのために、本単元で大切にしていきたい見方や考え方は、以下の通りである。

- ・被減数を10といくつかとしてとらえること
- ・被減数を10といくつかに分解して、10から減数をひいて残りの数をたす減加法を知ること
- ・被減数の一の位の数をひいてさらに10から残りの数をひく減減法を知ること
- ・数によってどのやり方が正しく簡単に計算できるかを考え、選択すること

本時では、特に減数と被減数の一の位の数に着目して、減加法より減減法のほうが計算がしやすいのではないかということ、ブロック操作や図によって考え説明できるようにする。

3 児童の実態

問題に対して、積極的に向き合おうとする児童が多い。ただ、数に対する経験不足か、0の加法減法でつまずいたり、数の大小が混乱して正しく立式できなかったりする児童がいる。全体交流では、自分の考えをしっかり話せる児童が多いが、小集団交流では、自分から話しかけられない児童もいる。

4 研究内容に関わって

研究内容1 見方・考え方を働かせるための手立ての明確化

(2) 単元で活用する算数用語や本時に活用するキーワードの明確化

減法では、減数分を「とる」と考えることを確認し、どこからとるとわかりやすいのかを、具体的場面を想起しながら考えることができるようにする。

(3) 解決の見通しにつながる既習内容の提示

前時の10から被減数を引く減加法の提示をすることで、本時の場面との比較ができるようにする。

(4) 数学的な表現の準備

これまでの学習で学んできたブロック操作を使って、この問題で減数をどこからとるのかを説明できるようにする。説明する場としてブロックコーナーを準備しておく。

(5) 全体交流での教師の働きかけの明確化

10のまとまりと端数の具体物を準備して見せることで、日常生活の中では減減法を活用していることに気づき、減減法の考え方のよさに気付くことができるようにする。

研究内容2 学びを深める学習活動の工夫

(1) 個人追究の在り方

①自分の考えをもつための根拠の選択

これまでに学習した内容をもとに、ブロック操作に取り組むことで、自分が場面を把握した仲間にも説明しやすくなる。それによって、より主体的に学習に向かうことができると考える。

(2) 伝え合う活動の工夫

①目的を明確にした小集団交流・全体交流の位置付け

自分の考えをもつことができた児童から、スクラブル交流を行う。それによって多様な考え方に触れるとともに、繰り返し自分の考えを説明することで、より考えを確かなものに行うことができる。

また交流では、操作をしながら自分の考えを話すだけでなく、聞く側の児童が仲間の説明を聞きながらブロックを操作する発表形態を位置付ける。それによって、仲間の考えをより深く理解することができるように考える。

5 本時の展開 (3 / 7)

本時のねらい：10のまとまりから1位数をひくよりも、被減数の一の位からひくことのよさに気づき、ブロック操作や図を使って説明することができる。

本時児童に働かせたい見方・考え方：被減数の一の位の数に着目したり日常生活の場面とつなげて場面の状況をとらえたりする。

段階	学習活動	研究の具体的方途
<p>つかむ</p> <p>考えをもつ</p> <p>考えを深める</p> <p>考えをたしかにする</p>	<p>1 問題をつかむ (◎共通点・⇔相違点)</p> <div data-bbox="201 546 1015 672" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>たまごが12こあります。3こたべます。 たまごは なんこ のこりますか。</p> </div> <p>◎「たべます」「のこりますか」だからひきざんだね。 ⇔10から3をとればいいかな。もっとかんたんなやり方はないかな。</p> <p>2 課題づくりをする</p> <div data-bbox="201 828 1015 954" style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>ひくかずを どこからとるか かんがえて けいさんしよう。</p> </div> <p>3 自分の考えをもつ</p> <p>○ブロックを操作しながら、減数をどこからひくとよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの勉強の通り、10から3をひいて7。7と2で9。 3は、2と1なので、まず2をとった後、10から1をひいて9。 <p>4 考えを交流する</p> <p>○スクランブル交流で、相手の説明の通りにブロックを操作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ぼくは、10から3をとるやり方をしました。12は10と2です。はじめに、10から3をひいて7。7とのこりの2で9です。 私は、2からとるやり方でした。3は2と1なので、まず2をとります。あとの1を10からひいて9です。 <p>○全体交流で2通りのやり方を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2からとるやりの方が、最後にたし算をしなくていいから簡単。 10から1をひくだけだから、分かりやすい。 <p>5 たしかめ問題をする</p> <p>○■5②11-2を、2通りのやり方でやってみる。どちらが、早く簡単に計算できたかを交流する。</p> <p>6 まとめをする</p> <div data-bbox="201 1792 1015 1917" style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>12-3のような ひきざんでは、ばらから ひくほうがかんたんにできる。</p> </div> <p>7 評価問題をする</p> <p>■5①③、■6の問題を解く。</p>	<p>【研究内容1 (3)】</p> <p>〈既習事項の確認〉</p> <p>前時までの10のまとまりから引くことによって答えを導き出していたことを想起させる。そのうえで本時の問題についてブロックを並べてみて、より簡単にできるやり方はないか考えてみようとする意欲をもたせる。</p> <p>【研究内容2 (2) -①】</p> <p>〈目的を明確にした小集団交流〉</p> <p>スクランブル交流で見つけた2通りのやり方を互いにブロック操作しながら説明することを通して、より早く簡単に答えを導き出す方法を考える。</p> <p>【研究内容2 (2) -②】</p> <p>〈話し方の提示〉</p> <p>相手がブロックを操作できるように順序に気を付けて話すことができるように、順序立てた話し方ができる補助プリントを準備する。</p> <div data-bbox="1043 1711 1471 2024" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><評価規準></p> <p>10のまとまりから1位数をひくよりも、被減数の一の位からひくことのよさに気づき、説明している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>A 2つのやり方を比較して説明している。</p> <p>B 自分の考えたやり方を説明している。(発表・ワークシート)</p> </div>